

シンポジウム

東日本大震災：超巨大地震・津波 被害、福島原発災害を考える

災害からの回復、今後にはしなければならないこと、未来のための選択の指針を
ともに考えたいと思います。

とき：2011年12月3日（土）、13時開場、13時15分開会、17時終了

場所：北海道クリスチャンセンター・2階ホール（札幌市北区北7条西6丁目）

報告者：岡田弘氏（北大名誉教授）

「東日本大震災から何を学ぶか・・・直撃回避への道」

松井英介氏（岐阜環境医学研究所）

「『低線量』内部被曝と健康障害」

大友詔雄氏（（株）NERC（自然エネルギー研究センター）センター長）

「転換期を迎えた自然エネルギーの現状と今後の可能性」

主催：東日本大震災問題シンポジウム実行委員会

（原発問題全道連絡会、自由法曹団道支部、全大教北海道、日本科学者会議道支部、
北海道民医連）

参加費：500円

問い合わせ先：日本科学者会議北海道支部（e-mail:jsa-hokkaido@mc6.sings.jp,

電話・ファクス：011-707-2299)

岡田 弘氏 2000年有珠山噴火の際の住民避難や危機管理で知られるが、本来の専門は地震学。北大理学部地球物理学科卒。自然災害は、社会の脆弱性（もろさ）が主因という。原発震災然り。災害列島に生きる限り、今後も地震・津波・噴火などと向かい合う。だが、減災は可能だ。一人一人の自覚と行動力で、更なる減災社会を築き上げていきたい。

松井 英介氏 元岐阜大医学部助教授。専門は呼吸器病学と放射線医学。2003年に岐阜環境医学研究所を設立し、アスベストや産廃など環境問題と健康との関係を調査・研究している劣化ウラン弾の問題も詳しい。東日本大震災後、有志で「浜岡原発の運転停止を求める会・岐阜」を結成した。無視されがちだった「内部被曝」について語っていただく。

大友 詔雄氏 北大工学研究科原子工学専攻の修了。同教員を経て、1999年に北大発ベン

チャー企業として(株)NERC（自然エネルギー研究センター）を設立、センター長として自然エネルギー利用などのコンサルティングを行う。2007年に同大学を退官。（株）NERC（自然エネルギー研究センター）センター長。北海道木質ペレット推進協議会会長。

